

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成22年度第18回（定例会）

署名人 城間勝

委員長 田端温代

開催日時 平成22年12月16日（木）

開会 午前10時00分

閉会 午前12時00分

開催場所 那覇市教育委員会 第1会議室

出席委員 田端温代委員長、有銘寛之委員、金城眞徳委員、城間勝委員、城間幹子教育長

議事日程

議案第38号 那覇市立幼稚園教諭定期人事異動方針について（こども政策課）

議案第39号 地方自治法第180条の2に基づく協議について

報 告 平成23年度教育委員会組織及び定員について

報 告 平成23年度実施計画査定結果について

報 告 平成23年度那覇市一般会計予算に関する要求について

議案第40号 平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について（総務課）

（非公開）報告 管理職の途中人事の内申について（学校教育課）

出席職員

新城和範生涯学習部長、盛島明秀学校教育部長、宮城實こども政策課長

吉野剛学校教育課長、伊禮弘匡総務課副参事、外間章学校教育課副参事

照屋満総務課主幹、稲福喜久二こども政策課主幹、富名腰史之こども政策課主査

平良真哉総務課主査、屋良幸広総務課主査

会議録作成 仲間稔総務課主査

田端委員長      ただいまから平成２２年度第１８回教育委員会会議定例会を開催いたします。  
 本日の会議録署名は城間委員にお願いいたします。では、議案第３８号「那覇市  
 立幼稚園教諭定期人事異動方針について」説明をお願いします。

澤岨部長      提案理由説明

宮城課長      説明

田端委員長      この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。  
 幼児教育の充実ということですが、その対象の幼児というのは３年教育ですか。

宮城課長      いまは２年教育です。

田端委員長      市長部局へ出向を積極的に行うということですが、現在どなたか出向されているな  
 どありますか。

宮城課長      今年から採用されました職員については、幼稚園・保育所、統一の試験を行って  
 おります。いま現在、幼稚園の方から保育所はおりませんが、反対に保育所の方から２  
 人、幼稚園の方に交流にしております。平成２４年度からは幼稚園・保育所が一带  
 となった施設ができるということになっております。国の方においても両方の免許を  
 持っている職員が対象ということで、今年からの採用になっておりますので、２年後、  
 ３年後には人事異動についても幼稚園から保育所、保育所から幼稚園というような異  
 動も活発に行われるようになると思います。

有銘委員      基本方針に「職員の心身に留意しつつ」とありますが、何かこれまでの経験なり、  
 反省なりを踏まえてこの文言を盛り込まれたのか。それを盛り込んだ意図、ねらいを  
 教えてください。

宮城課長      保育所など現場において、例えば親御さんとのいろんなやりとり等で、特に精神的  
 な面の重圧が多くなっているということもあります。ですから、これに盛り込むこと  
 でしっかりとその辺は対応していくというようなひとつの確認といえますか、そうい  
 ったことで今回入っております。

田端委員長      では、よろしいでしょうか。議案第３８号「那覇市立幼稚園教諭定期人事異動方針  
 について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員      異議なし

田端委員長      議案第３８号「那覇市立幼稚園教諭定期人事異動方針について」議決確定します。  
 続きまして議案第３９号「地方自治法第１８０条の２に基づく協議について」説明  
 をお願いします。

新城部長      提案理由説明

伊禮副参事      説明

田端委員長      この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。  
 必ずこのような協議を通して補助執行していくという形をとらざるを得ないのでし  
 ょうか。

新城部長      お手元の資料の３、４ページをご覧ください。４ページの別表、これは規

則の別表になりますが、補助執行させる職員、補助執行させる事務という形でひとつの規則のまとまりの中に入れる方法もあります。ところが、一件書類という形で個別に協議書を交わして、それでやる方式もあります。ですから今回のことが将来的にこの規則の中に盛り込んでしまうというようなこともあるのかどうか。それは将来の動きも見ながら判断することになりますけれども、方針としてはこういった規則と一件書類を兼ね備えているということでもあります。ですから恒常的、定例的になってきたら、この規則の中に入れた方がいいと思います。今回はこれでそのまま行きたいと思っています。

田端委員長      よろしいでしょうか。では、議案第39号「地方自治法第180条の2に基づく協議について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員      異議なし

田端委員長      議案第39号「地方自治法第180条の2に基づく協議について」議決確定します。続きまして報告「平成23年度教育委員会組織及び定員について」説明をお願いします。

新城部長      報告理由説明

伊禮副参事      説明

田端委員長      この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

城間委員      文化財課で、中核市移行を見据えた事務の強化ということがありますが、中核市になった場合に、今まで以上の業務や作業が増えるのでしょうか。2点目は、組織改正の基本方針について、小中一貫教育ということで大変良いことだと思いますが、一般的には小中一貫の場合は施設一体型や併設型がありますが、どういう中身のことをしようとしているのか。もう1点、県費負担図書館主事。これは県のお金で3名は学校に配置されているということなののでしょうか。

田端委員長      まず、1番目に質問のあった中核市移行に伴う事務量は増加について。

伊禮副参事      文化財関係で中核市移行した場合の理由ですが、これは国指定の文化財で、その申請関係について、現在、県の方で行っております。ただ、沖縄県の場合は国の文化財関係でも市町村を経由する手続きになっております。ですから現在もその事務は行っていますが、今後も国との関係の部分でしっかりと対応していきたいということです。

新城部長      文化財課の1増についての理由ですが、ご指摘されている中核市移行ということもありますが、それ以前に予算執行の管理を専門の職員である埋蔵文化財グループの職員がみっていますが、その事務はかなりの量があります。今回その担当の事務を1人増やすことによって、そこにシフトすることで埋蔵文化財の調査の面で強化が図られる、そういった部分での1増と考えております。

田端委員長      次に小中一貫についてお願いします。

盛島部長      教育委員会の考え方が示されたとおりですが、大きく分けて3つ。1つはカリキュラムを統一したいということで、方向性としては数学を少し強化したいということで

考えています。あとはシステムを若干変える必要がある。特に6年生と中学1年生の中1ギャップの解消。1月の校長会で報告をして、議論を深めていきたいと考えております。推進協議会を活かしていくために校長会でも議論をしていかないといけない。6年生は中学生の教科担任制にしていきたいということを考えております。併設型や分離型があり、ほとんどは分離型になると思いますが、併設は何校かの小学校があります。私たちは予算要求で小中一貫コーディネーター1人、那覇市が採用しております。教員を1人採用して、その方がコーディネートしながら、小中の先生方にあまり負担をかけない、むしろ小中一貫教育をやったおかげで少しゆとりを持てるというような方向で考えています。ですから、それを小1と小6をしっかり繋ぐための、小中一貫となると負担が増えるイメージがありますが、そうではありません。各中学校に1人コーディネーターをおいて、その方がしっかり小中一貫のコーディネートをしていただきながらやっていきたいと思います。中学校の先生方の授業数が増えるとか、そういうような発想はほとんどありません。そういうことではなくて、むしろ、それによって若干ゆとりが持て、子ども達の中学入学時の不安の解消を図りながら学力を高めていくという発想での夢と希望のある小中一貫教育だと考えております。平成28年度を目処に進めていきたいと考えております。

城間教育長      いま説明があった通りですが、本当に大きな教育委員会の過渡期といいますか、そういう改革をやるために、やはり推進室ということで特化して業務にあたっていただく部分も必要であるというふうに考えて、このような組織づくりを提案しております。今後これがどのように学校現場に、校長を中心とした学校運営等にご理解をいただけるか、もちろんこちらとしては努力をしますし、そのようにもっていきますけれども、やはりいろいろな形で協議を重ねながらご理解をいただきたいというふうに考えております。夢があるというふうな話もありましたが、その進行具合によっては目標として28年度とやっていますが、できるところからということで神原小中学校をやりますが、次にできるところはどこかなということで、あがった学校をできるように体制を整えて順番にやっていこうということで、最終的には那覇市全体でということと考えております。

田端委員長      では3点目の図書館の件につきましてお願いします。

伊禮副参事      規模の大きい学校は、県費の事務が2人配置しています。対象となっているのは、首里中、小禄中、金城中、この3校ですが、その人員2人のうち1人は図書館の方に配置しております。

有銘委員      中央図書館の方で定数は変わらなくてグループとして明確に区分していますが、2つに分けた奉仕グループの職務の内容を明確に教えていただきたいという件と、数ヶ月前に国の補助事業で緊急雇用の採用があったと思いますが、その人数は含まれないのですか。

伊禮副参事      中央図書館の方で、グループを2つに分けていますが、管理グループというのは施

設の管理関係から予算執行等を扱います。各図書館からの予算執行につきましては中央図書館の方で一括してやっています。奉仕グループは、図書館の運営、窓口や蔵書の入れ替え、あるいは利用者からの問い合わせ等に対応します。それと各分館との統一した方針、そういったことをやる部分と、各分館の関係の統括ということで2つのグループに分けて、それぞれで主幹を置くという形での組織改正となっております。

田端委員長 奉仕グループについて、カンファレンス業務などは非常に専門性の高い職種にもかかわらず、とりあえず奉仕として括ってしまうのはどうでしょうか。グループ名をつける時には少し検討していただきたい。

新城部長 中央図書館の組織をこのように設けた発想ですが、先の教育委員会会議で中央図書館長が市立図書館の基本的な考え方という構図を説明したと思います。新聞の記事になったり、本議会で質問があって答弁したという経過ですが、そういった取り組みの中で組織をこのように改めたいということです。グループ名については再考が可能かどうか検討してみます。

田端委員長 新しい時代が感じられるような名前にしていただけたらと思います。それから緊急雇用の件につきましてお願いいたします。

伊禮副参事 緊急雇用につきましては定数では扱わない部分でございます。

有銘委員 今年度の教育委員会の定数削減ノルマは達成していると思いますが、今後の定数削減目標について、どのように考えているのかお聞きしたい。

伊禮副参事 現在、那覇市の方針としましては、平成26年度までに2,200という方針があります。現在、中核市移行の検討がありますが、中核市移行ということになりますと、現在、県でやっている事務が市の方にという事務もありますので、大幅な人員増が必要になります。平成26年度の2,200名という方針を変更するのかどうかにつきましては、決定はしておりませんので、中核市移行の絡みから、市長部局と調整しながらの定数削減になると思います。

金城委員 用務員が退職不補充とありますが、配置しなくても学校として大丈夫ですか。それから平成26年度を目処にしている小中一貫校の問題もとりあえずは神原小中の一貫校のモデル事業を加味して、その強化の後に全市的な小中一貫の動きになると思っていたのですが、神原小中校の評価なしに小中一貫は平成26年度から全市に動くのでしょうか。

伊禮副参事 用務員につきましては、本務が退職しますと非常勤職員を充てておりまして、学校現場には支障はありません。

盛島部長 小中一貫のモデル校というのは全市に広げるというようなひとつの基本のモデルがありますので、最初に中学校1校、小学校1校で実施して、2年ぐらい実施して課題が見えてくると思います。その課題をどうやって解決するかということを整理しながら進めないといけませんので、この1、2年は課題整理の時期ということで予定しています。なぜ小中一貫校かといいますと、結構県外の都道府県、市町村で実施してい

る学校は増えてきておりまして、かなり成果を出しています。特に、小学校6年から中学へ進学するときに、いわゆる中1ギャップ。不登校、いじめが非常に多い。小中一貫をやっているところを見ると、そういうことが対処されている面ではかなり効果が出ています。小中一貫教育についてはあくまでも前回示した考え方ですので、当然構想はしっかりまとめて、これからの教育委員会議での報告、決議を進めていきますので、これから実際に説明しながら理解を深めていきたいと思います。

田端委員長      よろしいでしょうか。では、報告「平成23年度教育委員会組織及び定員について」了承します。続きまして報告「平成23年度実施計画査定結果について」説明をお願いします。

新城部長      報告理由説明

伊禮副参事      説明

照屋主幹      説明

田端委員長      この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

財政が非常に逼迫している中で、削減、削減ということですが、その中において教育行政に対する理解は他と比べていかがでしょうか。是非、教育は国づくりだということを踏まえて教育委員会を一般行政の皆さんにアピールしていただけたら大変ありがたいと思いますのでよろしく願いいたします。

城間教育長      去年、今年と市長部局とのやりとりで感覚的なものですが、いろいろな形で、例えば牧志・安里再開発地区の公民館であったり、天久小学校であったり、大きなものを建てていただき、それに付随したいろいろな教育活動に対しては非常に理解をいただいているというふうに思っています。今回、平成23年度に要求を出しています、学校安心・安全支援員等々につきましてもまだ認定されているわけではないですけども、その予算計上につきましてもいろいろお話をしたところ理解を示していただいて、ご理解をいただいているというふうなところがあります。それは、我々側からの市長部局、市長はじめ企画、財務の方々、あるいは議員さんに対してのアプローチの仕方もあると思いますので、今後ともこれだけはというのは教育委員会、一枚岩で対応していきたいと思っています。

盛島部長      天久小学校については厳しい査定になっていますが、平成24年の開校に向けては万全の体制でいけるようになっておりますのでご心配ありません。

城間委員      教育相談支援事業に関して、真和志中学校の支援員がすばらしい方がいまして、適応障害とか心因性とか発達障害が増えていく中で、教師の対応する時間というのはそんなにはないため、彼女は週に3回、1日4時間、もちろんそれ以上もしていましたが、教師以上の仕事をして、教師に相談できないことや、教師が言うことよりも、この人が言うことは聞いたりしました。一生懸命聞いてあげるというためには、たくさんの時間が必要だが、ただし1日4時間しかない。そのためボランティアでまる一日いたりすることもありました。この事業についてはそのまま残されるということでした。

ようか。この事業の必要性は、私は真和志中学校にいて強く感じました。

盛島部長 教育相談支援についてはだいたい9時から3時ぐらいまでの勤務になっておりますので、そういった時間の延長、勤務時間の延長ということをお願いしたいと思いますが、これは重要度なども加味されていますので、来年もがんばって、勤務時間の延長を要求していきます。

田端委員長 教育相談員の皆さんの研修体制はどのようになっていますか。

盛島部長 合同の研修会を総合青少年課で年2回やるようにしています。

田端委員長 よろしいでしょうか。では、報告「平成23年度実施計画査定結果について」了承します。続きまして報告「平成23年度那覇市一般会計予算に関する要求について」説明をお願いします。

新城部長 報告理由説明

伊禮副参事 説明

田端委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

有銘委員 学務課の増の理由で、小中要準就学援助費で給食費の問題があり、財政で措置をしてあげないといけないということで、予算としてあがっていることは致し方ないことではありますが、その分、学務課本来の、ちょっと語弊がありますけれど、前向きな予算にはうまく使えなかったというのは残念だなと思いますが、これも致し方ないと受け止めるしかないかなというのはあります。

盛島部長 有銘委員のご指摘のとおりですが、おっしゃるとおり5ページの試算案だけでもおそらく1億円ぐらいです。非常に大きい額です。小学校が要保護、準要保護で20パーセントぐらい。中学校が25パーセントぐらい。しかも年々増加しています。この数年の財政事情というのはかなり大きいと思っています。

田端委員長 大変残念ですけど、これも時代かなと思ったりしますが、私が気になりますのは、学校教育課の中学校英語指導員配置事業の中で500万円の減額になっているわけですが、那覇市は英語教育を全市あげて行っていますが、500万円の減額はこういったことでしょうか。外国人英語指導員の配置体制を見直して減額するとありますが、これはこういった趣旨でこれだけの減額になったのでしょうか。

盛島部長 本来は各校に1名ずつというのが理想な形ですが、以前、研究開発指定を受けてから中学校から小学校6年生について行われて、その引き揚げがひとつということです。それから小学校は先生方がいないので指導が難しいだろうということで全校配置しています。中学校はかなり英語の先生方がネイティブに負けないぐらいの力をつけてきて、いまはほとんど遜色ないぐらいの指導ができるような現状だということで、だいたい2校1人ずつのローテーションで配置していても十分対応できるというような判断です。また学校安心安全支援員という部分で予算要求しているので、全体の中でも増減というのは考えないといけないということで、今回は特に中学校の英語指導員が1減ということになっております。

田端委員長 学校支援地域本部事業が350万円実計査定落ちとありますけれど、その支援本部事業を那覇市の学校ではなくなるという解釈でよろしいですか。

盛島部長 これは3年間の時限つきでありましたので、これは一定の役割を終えたということになっています。

田端委員長 よろしいでしょうか。報告「平成23年度那覇市一般会計予算に関する要求について」は了承します。続きまして、議案第40号「平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について」説明をお願いします。

新城部長 提案理由説明

伊禮副参事 説明

田端委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

城間委員 グレア対策とは何ですか。それと、野球資料館展示画像作成に係る経費で、興南高校の甲子園映像資料とありますが、これは興南高校の春、夏のを映像化して、県の野球の歴史を映像化して、その中に興南高校ということなのか。それとも興南高校だけのものを映像として入れるということなのか。それからもう1点。これは小学校英語指導員配置事業で、英語指導員の年間支給額が低いという状態なのか。そんなに那覇市は近隣市町村より低いのかどうか、その3点を教えてください。

新城部長 1、2点目は私の方でお答えいたします。セルラースタジアム関連ということでは、まご指摘いただいたグレア対策、それから興南高校の野球関係です。グレア対策というのは、まぶしさを防ぐための対策ですけれども、夜間に野球の試合をするためにナイターということで照明が必要です。実は、その照明が那覇港に入港してくる船舶からまぶしいというようなことがありまして、そのまぶしさ対策について、何らかの措置をしてほしいということです。では、どのような方法があるかということで、対策というのは、照明塔にちょっとしたゴーグルをかぶせるとか、そういった工事という手法があります。そういったことも含めてまだ検討中ですが、セルラースタジアムは、市民、県民の待望の施設ということでありますので、そういった形で何らかの対策を加えることが本当にいいことなのかどうか。本当にまぶしいのであろうかということで船舶会社等へ確認しているところです。厳しいですけれども、これは安心・安全の対策ということになってくると放置できない課題でありますので、今後、市長と調整していきたいと思っております。それから興南高校ですが、おっしゃるとおりこれまでの高校野球の歴史というのはセルラースタジアムがオープンした際に設置されています。これの映像を皆さんに見ていただいています。今回の春・夏連覇はかなり盛り上がりまして、議会サイドでも感心があり、質問等ありましたが、その中で興南高校の活躍、そのことについて映像化は図れないか検討いたします、という流れの中での今回の要求です。その映像はNHKからの提供をお願いしたいと思っておりますが、これは著作権の関係で1秒間いくらという形で高くなります。それでもって臨時の予算要求に入っていますけれど、これも厳しい中での厳しい要求になります。

田端委員長      ありがとうございます。では3番目の英語指導員の年間支給額が低いのかどうかということですが。

伊禮副参事      英語指導員は外国人と日本人とありまして、日本人の1日の報酬が9,000円というようになっております。県内の2市の方と比較しますと、宜野湾市の方が1万2,000円、浦添市は9,000円なんですけど、実は、年間勤務日数が那覇市と異なりまして、那覇市の場合150日程度の日数となっておりますけれど、浦添市の方は250日、ですから年間の支給額で那覇市の方で手取り135万円、浦添市の方は251万円、宜野湾市の方は256万円という形です。その差があるものですからなかなか集めにくいということで、日額9千円を1万円にしたいということでの要求です。

田端委員長      よろしいでしょうか。では、議案第40号「平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員            異議なし

田端委員長      議案第40号「平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について」議決確定します。次に報告「管理職の途中人事の内申について」に関しては、人事に関する議案のため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項」を適用し、非公開とすることが適当であると思われますので、その可否について委員の議決を図りたいと思います。

全 員            異議なし

田端委員長      議決により非公開としますので、関係者以外は退席をお願いします。

～ 非公開 ～

田端委員長      非公開を解きます。「管理職の途中人事の内申について」報告を了承したいと思います。以上をもちまして、平成22年度第18回教育委員会会議を終了します。